(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2012-140182
(P2012-140182A)
(43)公開日　平成24年7月26日(2012.7.26)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B65D 23/08	(2006.01)	B65D	23/08	B	3E033
B65B 53/00	(2006.01)	B65B	53/00	C	3E062
B65D 1/02	(2006.01)	B65D	1/02	C	
B65B 53/02	(2006.01)	B65B	53/02	H	

審査請求 未請求　請求項の数 10　ＯＬ　（全 15 頁）

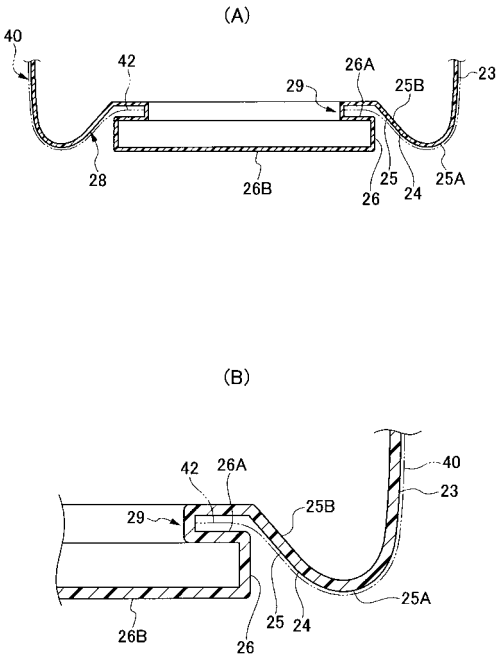
(21)出願番号　特願2011-251681 (P2011-251681)
(22)出願日　平成23年11月17日 (2011.11.17)
(31)優先権主張番号　特願2010-282269 (P2010-282269)
(32)優先日　平成22年12月17日 (2010.12.17)
(33)優先権主張国　日本国 (JP)

(71)出願人　000000918
花王株式会社
東京都中央区日本橋茅場町１丁目１４番１０号
(74)代理人　100081385
弁理士　塩川　修治
(72)発明者　関　直子
東京都墨田区文花２－１－３　花王株式会社研究所内
(72)発明者　稲川　義則
東京都墨田区文花２－１－３　花王株式会社研究所内
(72)発明者　相良　幸一
東京都墨田区文花２－１－３　花王株式会社研究所内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ラベル付き容器

(57)【要約】
【課題】　ラベル付き容器において、ラベルの下端を容器本体の底部に整えて設け、容器の美的外観を向上すること。
【解決手段】　容器本体２０と、該容器本体２０の少なくとも胴部２３から底部２４に至る領域に被せられた熱収縮フィルムからなるラベル４０とを有する容器１０であって、容器本体２０の底部２４に該容器本体２０の内側へ凹んだ凹み部２８を設け、この凹み部２８に、ラベル４０の下端４２を挟み止めするラベル留め部２９を備えたもの。
【選択図】　図５



【特許請求の範囲】
【請求項１】
容器本体と、該容器本体の少なくとも胴部から底部に至る領域に被せられた熱収縮フィルムからなるラベルとを有する容器であって、
容器本体の底部に該容器本体の内側へ凹んだ凹み部を設け、この凹み部に、ラベルの下端を挟み止めするラベル留め部を備えたラベル付き容器。
【請求項２】
前記熱収縮フィルムからなるラベルが容器本体の首部から底部に至る領域に被せられ、容器本体の首部に打ち込まれる打ち込みキャップと該容器本体の首部とにより、ラベルの上端を挟んで固定する請求項１に記載のラベル付き容器。
【請求項３】
前記熱収縮フィルムからなるラベルが容器本体の肩部から底部に至る領域に被せられ、容器本体の首部に打ち込まれる打ち込みキャップと該容器本体の肩部とにより、ラベルの上端を挟んで固定する請求項１に記載のラベル付き容器。
【請求項４】
前記容器本体の底部が、胴部につながり、該胴部に対して縮径かつ概ね傾斜状をなす傾斜部と、胴部とは反対側において傾斜部につながり、該傾斜部から該容器本体の半径方向の外方へ張り出る張り出し部とを有し、張り出し部及び傾斜部が容器本体の内側へ押し込まれ、容器本体の底部まわりに定めた反転境界部に対し容器本体における軸方向の内側にまで押し込まれた傾斜部が張り出し部とともに凹み部を形成するとき、張り出し部の傾斜部につながる張り出し面が該傾斜部に相対するラベル留め部を形成する請求項１～３のいずれかに記載のラベル付き容器。
【請求項５】
前記ラベル留め部を形成する張り出し部の張り出し面が傾斜部の下端側に相対する面からなる請求項４に記載のラベル付き容器。
【請求項６】
前記傾斜部と張り出し部の接続部が溝を構成する請求項４又は５に記載のラベル付き容器。
【請求項７】
前記容器本体の首部が、打ち込みキャップの係止部が係止する小径首部と、該小径首部より胴部寄りに設けられて打ち込みキャップのスカート部が被着する大径首部とを有し、
ラベルが小径首部から少なくとも胴部に至る領域にわたり被せられてなる請求項２～６のいずれかに記載のラベル付き容器。
【請求項８】
容器本体の底部が、胴部につながり、該胴部に対して縮径かつ概ね傾斜状をなす傾斜部と、胴部とは反対側において傾斜部につながり、該傾斜部から該容器本体の半径方向の外方へ張り出る張り出し部とを有し、張り出し部及び傾斜部が容器本体の内側へ押し込まれ、容器本体の底部まわりに定めた反転境界部に対し容器本体における軸方向の内側にまで押し込まれた傾斜部が張り出し部とともに凹み部を形成するとき、張り出し部の傾斜部につながる張り出し面が該傾斜部に相対するラベル留め部を形成する容器。
【請求項９】
容器本体と、該容器本体の少なくとも胴部から底部に至る領域に被せられた熱収縮フィルムからなるラベルとを有する容器の製造方法であって、
容器本体の胴部及び底部まわりにラベルを被せ、
上記ラベルを加熱して容器本体の胴部及び底部の外形まわりに熱収縮させて沿わせ、
容器本体の底部を該容器本体の内側へ押し込んで凹み部を形成し、この凹み部が備えるラベル留め部にラベルの下端を挟み止めするラベル付き容器の製造方法。
【請求項１０】
前記ラベルの下端を凹み部のラベル留め部に挟み止めした後、該ラベルを再び加熱する請求項９に記載のラベル付き容器の製造方法。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明はラベル付き容器に関する。
【背景技術】
【０００２】
商品名や内容物の成分等の各種情報を印刷した熱収縮フィルムからなるラベルを容器本体に付したラベル付き容器が用いられている。
【０００３】
従来の多くのラベル付き容器は、特許文献１に記載の如く、ラベルを容器本体の胴部まわりの一部にしか設けていないため、ラベルに表示される文字やデザインが制約され、表示できる情報量も少なかった。
【０００４】
これに対し、特許文献２に記載のラベル付き容器では、容器本体の胴部から底部に至る広い範囲にラベルを設け、ラベルに表示される文字やデザインの自由度を上げ、表示できる情報量も多くできる。
【０００５】
また、特許文献３に記載のラベル付き容器では、容器本体の胴部から底部の接地面の内側に至るまでの領域に遮光性のラベルを設け、光による内容物の劣化を効果的に抑制できるものにしている。ラベルの下端が容器本体の底部の接地面の内側にまで回り込んでいて正立時の外観に表れない。
【０００６】
また、従来のラベル付き容器は、特許文献３に記載の如く、容器本体の首部のキャップが取付けられる部分の直下から、容器本体の底部の設置面の内側に至るまでの広い領域にラベルを設けることで、外観の向上などが図れる。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００７】
【特許文献１】特開2007-230590
【特許文献２】特開2000-159235
【特許文献３】特開2004-250040
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００８】
特許文献１～３に記載のラベル付き容器は、熱収縮フィルムからなるラベルの下端エッジが容器本体まわりに添って露出している。
【０００９】
このため、ラベルの薄い下端エッジが何らかの物に引っかかる等により破れる場合がある。
【００１０】
また、ラベルの下端エッジが容器本体との間に形成する微小隙間に水が浸入し、カビの発生等の汚損を生ずる場合がある。
【００１１】
特許文献３に記載のラベル付き容器であっても、転倒等により底部の内側が外観に表われたとき、ラベルの下端エッジが外観に露出し、美的外観を損なう。
【００１２】
本発明の課題は、ラベル付き容器において、ラベルの下端を容器本体の底部に整えて設け、容器の美的外観を向上することにある。
【００１３】
また、特許文献３に記載のラベル付き容器は、熱収縮フィルムからなるラベルの上端エ

ッジが容器本体の首部のキャップが取付けられる部分の直下に露出している。
【００１４】
このため、ラベルの薄い上端エッジが何らかの物に引っかかる等により破れる場合がある。
【００１５】
また、風呂場など、水がかかる環境では、ラベルの上端エッジと容器本体との間に微小な隙間が形成されていると、そこに水が浸入し、カビの発生等の汚損を生ずる場合がある。
【００１６】
本発明の課題は、ラベル付き容器において、容器の美的外観を向上し、ラベルの破損や汚損を防止することにある。
【課題を解決するための手段】
【００１７】
請求項１に係る発明は、容器本体と、該容器本体の少なくとも胴部から底部に至る領域に被せられた熱収縮フィルムからなるラベルとを有する容器であって、容器本体の底部に該容器本体の内側へ凹んだ凹み部を設け、この凹み部に、ラベルの下端を挟み止めするラベル留め部を備えたものである。
【００１８】
請求項２に係る発明は、請求項１に係る発明において更に、前記熱収縮フィルムからなるラベルが容器本体の首部から底部に至る領域に被せられ、容器本体の首部に打ち込まれる打ち込みキャップと該容器本体の首部とにより、ラベルの上端を挟んで固定するようにしたものである。
【００１９】
請求項３に係る発明は、請求項１に係る発明において更に、前記熱収縮フィルムからなるラベルが容器本体の肩部から底部に至る領域に被せられ、容器本体の首部に打ち込まれる打ち込みキャップと該容器本体の肩部とにより、ラベルの上端を挟んで固定するようにしたものである。
【００２０】
請求項４に係る発明は、請求項１～３のいずれかに係る発明において更に、前記容器本体の底部が、胴部につながり、該胴部に対して縮径かつ概ね傾斜状をなす傾斜部と、胴部とは反対側において傾斜部につながり、該傾斜部から該容器本体の半径方向の外方へ張り出る張り出し部とを有し、張り出し部及び傾斜部が容器本体の内側へ押し込まれ、容器本体の底部まわりに定めた反転境界部に対し容器本体における軸方向の内側にまで押し込まれた傾斜部が張り出し部とともに凹み部を形成するとき、張り出し部の傾斜部につながる張り出し面が該傾斜部に相対するラベル留め部を形成するようにしたものである。
【００２１】
請求項５に係る発明は、請求項４に係る発明において更に、前記ラベル留め部を形成する張り出し部の張り出し面が傾斜部の下端側に相対する面からなるようにしたものである。
【００２２】
請求項６に係る発明は、請求項４又は５に係る発明において更に、前記傾斜部と張り出し部の接続部が溝を構成するようにしたものである。
【００２３】
請求項７に係る発明は、請求項２～６のいずれかに係る発明において更に、前記容器本体の首部が、打ち込みキャップの係止部が係止する小径首部と、該小径首部より胴部寄りに設けられて打ち込みキャップのスカート部が被着する大径首部とを有し、ラベルが小径首部から少なくとも胴部に至る領域にわたり被せられてなるようにしたものである。
【００２４】
請求項８に係る発明は、容器本体の底部が、胴部につながり、該胴部に対して縮径かつ概ね傾斜状をなす傾斜部と、胴部とは反対側において傾斜部につながり、該傾斜部から該

容器本体の半径方向の外方へ張り出る張り出し部とを有し、張り出し部及び傾斜部が容器本体の内側へ押し込まれ、容器本体の底部まわりに定めた反転境界部に対し容器本体における軸方向の内側にまで押し込まれた傾斜部が張り出し部とともに凹み部を形成するとき、張り出し部の傾斜部につながる張り出し面が該傾斜部に相対するようにしたものである。

【００２５】

請求項９に係る発明は、容器本体と、該容器本体の少なくとも胴部から底部に至る領域に被せられた熱収縮フィルムからなるラベルとを有する容器の製造方法であって、容器本体の胴部及び底部まわりにラベルを被せ、上記ラベルを加熱して容器本体の胴部及び底部の外形まわりに熱収縮させて沿わせ、容器本体の底部を該容器本体の内側へ押し込んで凹み部を形成し、この凹み部が備えるラベル留め部にラベルの下端を挟み止めするようにしたものである。

【００２６】

請求項１０に係る発明は、請求項９に係る発明において更に、前記ラベルの下端を凹み部のラベル留め部に挟み止めした後、該ラベルを再び加熱するようにしたものである。

【発明の効果】

【００２７】

本発明によれば、ラベル付き容器において、ラベルの下端を容器本体の底部に整えて設け、容器の美的外観を向上することができる。

【００２８】

また、本発明によれば、ラベル付き容器において、ラベルの破損や汚損を防止し、容器の美的外観を向上することができる。

【図面の簡単な説明】

【００２９】

【図１】図１はラベル付き容器を示す正面図である。

【図２】図２は容器本体を示す正面図である。

【図３】図３は容器本体の首部へのラベルの固定構造を示す模式図である。

【図４】図４は容器本体の底部へのラベルの固定構造を示す模式図である。

【図５】図５は容器本体の底部へのラベルの挟み止め状態を示す模式図である。

【図６】図６は容器本体の首部へのラベルの固定構造の変形例を示す模式図である。

【図７】図７は容器本体の底部へのラベルの固定構造の変形例を示す模式図である。

【図８】図８は容器本体の底部へのラベルの固定構造の変形例を示す断面図である。

【図９】図９は容器本体の首部へのラベルの固定構造の変形例を示す模式図である。

【図１０】図１０は容器本体の底部と張り出し部の形状を示す模式図である。

【発明を実施するための形態】

【００３０】

図１に示すラベル付き容器１０は、容器本体２０に打ち込みキャップ３０を被着して用いられ、容器本体２０の首部２１、肩部２２、胴部２３、底部２４に至る領域に熱収縮フィルムからなるラベル４０を有する。

【００３１】

容器本体２０は樹脂製ブロー成形体からなる。容器本体２０を構成する樹脂としては、後述する底部２４の弾性的な押し込み変形を容易にする必要があり、ＰＰ、ＨＤＰＥ、ＰＥＴ、ＥＶＯＨ（いわゆるエチレン－酢酸ビニル共重合体の加水分解物）等の各種樹脂を採用でき、これらの各種樹脂を多層にしても良い。容器本体２０の厚みは概ね300μｍ～2000μｍが用いられる。

【００３２】

容器本体２０は、図２に示す如く、首部２１の上端部に、内容物を注入及び／又は吐出する開口２０Ａを備える。

【００３３】

容器本体２０は、小径筒状の首部２１が肩部２２を介して、大径筒状の胴部２３につな

がる。首部２１が円形断面をなし、胴部２３が楕円形断面をなすとき、肩部２２は中心軸まわりの各部でその傾斜を異にするものになる。

【００３４】

打ち込みキャップ３０は、容器本体２０の首部２１に打ち込み固定されるキャップ本体３１と、キャップ本体３１にヒンジ結合されて開閉するカバー３２とからなり、カバー３２の内面中央に設けたプラグ３３をキャップ本体３１の中央に設けてあるノズル３４に係脱可能にしている。打ち込みキャップ３０は、キャップ本体３１の内周側に後述の環状係止部３１Ａ及びインナーシール３１Ｃを設け、キャップ本体３１の外周に後述の環状スカート部３１Ｂを設けてある。

【００３５】

ラベル４０は、熱収縮フィルムからなり、表面に商品名等の印刷が施された後、両側縁部が溶剤で接着される等により筒状とされる。熱収縮フィルムは、加熱されていずれの方向にも収縮する方向性の熱収縮フィルムと、一方の方向にのみ収縮する異方性の熱収縮フィルムとが知られているが、本実施例では筒状ラベル４０の径方向にのみ収縮する異方性の熱収縮フィルムを用いることが好ましい。異方性の熱収縮フィルムは、延伸ポリエチレンテレフタレート、延伸ポリプロピレン、延伸ポリスチレン、もしくはそれらの積層フィルム等がある。フィルムの厚みは30～100μmが好ましい。

【００３６】

ラベル付き容器１０を製造するにあたっては、容器本体２０の首部２１～底部２４の概ね全体に筒状のラベル４０を被せ、このラベル４０を加熱して容器本体２０の首部２１～底部２４の外形まわりに熱収縮させて沿わせ、ラベル４０の上端４１と下端４２を容器本体２０の首部２１と底部２４に対して以下の如く固定する。

【００３７】

(A)容器本体２０の首部２１に対するラベル４０の上端４１の固定構造（図３）

容器本体２０の首部２１は、首部２１に打ち込まれた打ち込みキャップ３０の環状係止部３１Ａが外周に係止するとともに、インナーシール３１Ｃが内周に嵌合する小径首部２１Ａと、小径首部２１Ａよりも肩部２２、胴部２３寄りに設けられて打ち込みキャップ３０の環状スカート部３１Ｂ（打ち込みキャップ３０において環状係止部３１Ａの周囲に設けられている）が被着する大径首部２１Ｂとを有する。

【００３８】

そして、ラベル４０の上端４１は容器本体２０の首部２１に対して以下の手順で固定される。

(1)ラベル４０を容器本体２０の首部２１～底部２４に被せる。即ち、ラベル４０を首部２１の小径首部２１Ａから大径首部２１Ｂ、肩部２２、胴部２３、底部２４に至る領域に被せる。

【００３９】

(2)ラベル４０を加熱して熱収縮させ、容器本体２０の首部２１（小径首部２１Ａ、大径首部２１Ｂ）、肩部２２、胴部２３、底部２４の外形まわりに隙間なく沿わせる。異方性の熱収縮フィルムからなるラベル４０は、径方向に熱収縮し、容器本体２０の首部２１（小径首部２１Ａ、大径首部２１Ｂ）を含む外形まわりに概ね隙間なく被着する。

【００４０】

(3)打ち込みキャップ３０を容器本体２０の首部２１（小径首部２１Ａ、大径首部２１Ｂ）に打ち込む。打ち込みキャップ３０の環状係止部３１Ａが首部２１の小径首部２１Ａの外周に係止して打ち込み固定されると同時に、打ち込みキャップ３０のインナーシール３１Ｃが首部２１の小径首部２１Ａの内周に隙間なく嵌合し、打ち込みキャップ３０の環状スカート部３１Ｂが首部２１の大径首部２１Ｂに隙間なく被着する。これにより、打ち込みキャップ３０の環状係止部３１Ａと容器本体２０の首部２１の小径首部２１Ａとでラベル４０の上端４１を挟んで固定する。

【００４１】

従って、本実施例によれば、以下の作用効果を奏する。

(a)容器本体２０の首部２１に打ち込まれる打ち込みキャップ３０と容器本体２０の首部２１とにより、ラベル４０の上端４１を挟んで固定する。熱収縮フィルムからなるラベル４０の上端４１が、打ち込みキャップ３０と容器本体２０の首部２１によって挟まれ固定され、打ち込みキャップ３０により覆われているので、ラベル４０の上端エッジは全周にわたり露出しない。

【００４２】

このため、ラベル４０の薄い上端エッジが何らかの物に引っかかる等がなく、破れない。

また、ラベル４０の上端エッジと容器本体２０との間における水の浸入を抑制し、カビの発生等の汚損を生じない。

【００４３】

また、ラベル４０の上端エッジが外観に露出せず、容器１０の美的外観を向上する。

【００４４】

(b)打ち込みキャップ３０の環状係止部３１Ａを容器本体２０の小径首部２１Ａに係止したとき、打ち込みキャップ３０の環状スカート部３１Ｂが容器本体２０の大径首部２１Ｂに被着され、容器本体２０の小径首部２１Ａ～胴部２３（又は底部２４）に至る領域に被せられているラベル４０の上端４１を容器本体２０の小径首部２１Ａ及び大径首部２１Ｂにより２重に覆うこととなり、容器上部から水がかかった場合もラベル４０の上端に水が直接かかるのを防ぎ、ラベル４０の上端エッジと容器本体２０との間における水の浸入を抑制する。

【００４５】

図６はラベル４０の上端４１を容器本体２０の首部２１へ固定する構造の変形例である。この変形例では、打ち込みキャップ３０の環状係止部３１Ａが首部２１の大径首部２１Ｂに係止し、打ち込みキャップ３０の環状スカート部３１Ｂは首部２１の周囲を肩部２２に近接する位置まで垂下されているに過ぎない。尚、打ち込みキャップ３０のキャップ本体３１は首部２１の内径に挿着されるインナーシール３１Ｃを有している。従って、打ち込みキャップ３０を容器本体２０の首部２１（小径首部２１Ａ、大径首部２１Ｂ）に打ち込んだとき、打ち込みキャップ３０の環状係止部３１Ａが首部２１の大径首部２１Ｂに係止して打ち込み固定される。これにより、打ち込みキャップ３０の環状係止部３１Ａと容器本体２０の首部２１の大径首部２１Ｂとでラベル４０の上端４１を挟んで固定する。

【００４６】

図９はラベル４０の上端４１を容器本体２０の首部２１へ固定する構造の変形例である。この変形例では、ラベル４０が容器本体２０の肩部２２から底部２４に至る領域に被せられる。そして、容器本体２０の首部２１に打ち込まれる打ち込みキャップ３０の環状スカート部３１Ｂの先端面と容器本体２０の肩部２２との間に、ラベル４０の上端４１を挟んで固定する。

【００４７】

(B)容器本体２０の底部２４におけるラベル４０の下端４２の固定構造（図４、図５）

容器本体２０の底部２４は、図４に示す如く、胴部２３につながり、胴部２３に対して縮径かつ概ね傾斜状をなす階段状の傾斜部２５と、傾斜部２５につながり、傾斜部２５から容器本体２０の半径方向の外方へわずかに張り出る張り出し面２６Ａを備えてなる張り出し部２６とを有する。

【００４８】

容器本体２０にあっては、ブロー成形の当初から底部２４を構成する傾斜部２５及び張り出し部２６が胴部２３から容器本体２０の外側へ突き出し、張り出し部２６の閉塞端面は底板部２６Ｂを構成し、底板部２６Ｂにはピンチオフ部（不図示）を有する。そして、容器本体２０の底部２４は、ラベル４０の下端４２を固定するために、容器本体２０の外側へ突き出ている傾斜部２５及び張り出し部２６を容器本体２０の内側へ押し込み、傾斜部２５を底部２４まわりで胴部２３との境界部である反転境界部２５Ａに対し容器本体２０における軸方向の内側にまで押し込んだ押し込み反転部２５Ｂとする。このようにして

押し込み反転部２５Ｂを構成するに至った傾斜部２５と張り出し部２６が、内側へ凹んだ凹み部２８を容器本体２０の底部２４に形成し（図５）、この凹み部２８にラベル４０の下端４２を挟み止めするラベル留め部２９を備える。容器本体２０の底部２４において、張り出し部２６の傾斜部２５につながる張り出し面２６Ａが、押し込み反転部２５Ｂを構成するに至った傾斜部２５に相対し、この傾斜部２５との間にラベル４０の下端４２を挟み止めするラベル留め部２９を形成している。張り出し面２６Ａの張り出し長さは、5mm～70mmが好ましい。

【００４９】

ここで、凹み部２８を形成する張り出し部２６の張り出し面２６Ａは、押し込み反転部２５Ｂを構成している傾斜部２５の下端側に相対して概ね平行をなす面からなる。そして、傾斜部２５と張り出し部２６の交差部は環状溝部２７を構成する。

【００５０】

尚、容器本体２０は、底部２４における凹み部２８の外周縁（反転境界部２５Ａの位置）が容器１０を正立使用時の接地面になる。

【００５１】

ラベル４０の下端４２は容器本体２０の底部２４に対して以下の如くに固定される。

(1)ラベル４０を容器本体２０の首部２１～底部２４に被せるに際し、ラベル４０を胴部２３から容器本体２０の外側へ突き出ている底部２４（傾斜部２５、張り出し部２６）まわりに至る領域に被せる（図４（Ｂ））。ラベル４０の下端４２が底部２４まわりで胴部２３との境界部（前述の反転境界部２５Ａ）から突出する被せ長さＮは、後述するラベル４０の熱収縮時に、下端４２が底部２４の環状溝部２７に入り込む長さに設定しておく。

【００５２】

(2)ラベル４０を加熱して容器本体２０の首部２１、肩部２２、胴部２３、底部２４（傾斜部２５、張り出し部２６、環状溝部２７）の外形まわりに熱収縮させ、隙間なく沿わせる（図４（Ｃ））。異方性の熱収縮フィルムからなるラベル４０は、径方向に熱収縮し、容器本体２０の底部２４（傾斜部２５、張り出し部２６、環状溝部２７）を含む外形まわりに隙間なく被着する。このとき、ラベル４０の下端４２は底部２４の環状溝部２７に入り込む。

【００５３】

(3)容器本体２０の底部２４（傾斜部２５、張り出し部２６）を容器本体２０の内側へ押し込んで凹み部２８を形成し、この凹み部２８が備えるラベル留め部２９にラベル４０の下端４２を挟み止めする。

【００５４】

即ち、図５に示す如く、底部２４において張り出し部２６のピンチオフ部を有していて剛性の高い底板部２６Ｂを押し込み、これによって傾斜部２５を弾性撓み変形させることにより、傾斜部２５及び張り出し部２６を容器本体２０の内側へ押し込み、容器本体２０の底部２４まわりに設けた前述の反転境界部２５Ａに対し容器本体２０における軸方向の内側にまで押し込まれた傾斜部２５（押し込み反転部２５Ｂ）が張り出し部２６とともに凹み部２８を形成するとき、張り出し部２６の傾斜部２５、環状溝部２７につながる張り出し面２６Ａが傾斜部２５の下端側斜面に相対して形成するラベル留め部２９により、ラベル４０の下端４２を挟み止めする。

【００５５】

本実施例では、ラベル４０の下端４２が底部２４における傾斜部２５と張り出し部２６の間の環状溝部２７に入り込み、環状溝部２７に臨む張り出し部２６の張り出し面２６Ａが傾斜部２５の最下端部よりも半径方向の外方へ張り出しているから、張り出し部２６の張り出し面２６Ａが形成するラベル留め部２９によりラベル４０の下端４２を傾斜部２５の下端側斜面との間に確実に挟み止めする。

【００５６】

尚、底部２４の傾斜部２５（押し込み反転部２５Ｂ）は該底部２４まわりに定めた反転

境界部２５Ａに対し、容器本体２０における胴部２３と張り出し部２６の環状間隔の中を軸方向の内側深くにまで押し込まれるから、この押し込みによって形成される凹み部２８、ラベル留め部２９をその後も安定維持できる。即ち、容器本体２０の軸方向の内側へ一旦押し込まれた底部２４の傾斜部２５（押し込み反転部２５Ｂ）を容器本体２０の軸方向の外側へ押し返して突き出すように復元するためには、傾斜部２５の反転境界部２５Ａ～環状溝部２７の距離を、一定周長で拡径しない胴部２３と、高い剛性の底板部２６Ｂの存在によって縮径しない張り出し部２６とがなす環状間隔より小さい長さに撓み変形させる必要があるが、底部２４に作用する内容物の重量によってその撓み変形を生じさせることはできない。

【００５７】

(4)ラベル４０の下端４２を上述(3)の凹み部２８のラベル留め部２９に挟み止めした後、ラベル４０を再び加熱し、熱収縮させる。

【００５８】

従って、本実施例によれば、前述の(a)、(b)に加え、以下の作用効果を奏する。

(c)容器本体２０の底部２４に容器本体２０の内側へ凹んだ凹み部２８を設け、この凹み部２８にラベル４０の下端４２を挟み止めするラベル留め部２９を備えた。熱収縮フィルムからなるラベル４０の下端４２が容器本体２０の底部２４の凹み部２８に備えたラベル留め部２９に挟み止めされ、ラベル４０の下端エッジは露出しない。

【００５９】

このため、ラベル４０の薄い下端エッジが何らかの物に引っかかる等がなく、破れない。

また、ラベル４０の下端エッジと容器本体２０との間における水の浸入が抑制され、カビの発生等の汚損を生じない。

【００６０】

また、容器１０の転倒等によりその底部２４の内側が外観に表われても、ラベル４０の下端エッジが外観に露出せず、容器１０の美的外観を向上する。

【００６１】

(d)容器本体２０の底部２４に設けた張り出し部２６及び傾斜部２５が容器本体２０の内側へ押し込まれ、容器本体２０の底部２４まわりに定めた反転境界部２５Ａに対し容器本体２０における軸方向の内側にまで押し込まれた傾斜部２５が張り出し部２６とともに凹み部２８を形成するとき、張り出し部２６の傾斜部２５につながる張り出し面２６Ａが該傾斜部２５に相対するラベル留め部２９を形成する。ラベル留め部２９を形成する張り出し部２６の張り出し面２６Ａが傾斜部２５との間にラベル４０の下端４２を挟み止めするものになる。

【００６２】

(e)ラベル留め部２９を形成する張り出し部２６の張り出し面２６Ａが傾斜部２５の下端側斜面に相対する斜面からなる。ラベル４０の下端４２を相対する平行斜面により面同士で確実に挟み止めするものになる。

【００６３】

(f)傾斜部２５と張り出し部２６の交差部に設けられる溝部２７に、ラベル４０の下端４２を安定的に位置付けた状態で、ラベル留め部２９を形成する張り出し部２６の張り出し面２６Ａが傾斜部２５との間にラベル４０の下端４２を安定的に挟み止めするものになる。

【００６４】

(g)容器本体２０の胴部２３及び底部２４まわりにラベル４０を被せ、上記ラベル４０を加熱して容器本体２０の胴部２３及び底部２４の外形まわりに熱収縮させて沿わせ、容器本体２０の底部２４を容器本体２０の内側へ押し込んで凹み部２８を形成することにより、この凹み部２８が備えるラベル留め部２９にラベル４０の下端４２を確実に挟み止めできる。

【００６５】

(h)ラベル４０の下端４２を凹み部２８のラベル留め部２９に挟み止めした後、該ラベル４０を再び加熱することにより、ラベル留め部２９に挟み止めしたときに生じたラベル４０の下端４２まわりのしわを除去する等、ラベル４０の下端４２の挟み止め部を美麗に整えることができる。

【００６６】

尚、底部２４の凹み部２８のラベル留め部２９によりラベル４０の下端４２を強固に挟み止めするためには、ラベル留め部２９を構成する張り出し部２６の張り出し面２６Ａが、傾斜部２５に単に接するのみでなく、傾斜部２５に強く押圧することが好ましく、張り出し部２６の張り出し面２６Ａの半径ｒ（図４）を大きくすることが好ましい。張り出し面２６Ａの半径ｒは、張り出し面２６Ａの張り出し長さが前述の如くの5㎜～70㎜となるのが好ましい。

【００６７】

容器本体２０の底部２４に設ける張り出し部２６の形状は問わない。張り出し部２６の底板部２６Ｂの押し込み性を考えると、張り出し部２６は図１０に示す如く、底部２４と相似形とすることが好ましい。図１０（Ａ）は楕円形の底部２４と張り出し部２６、図１０（Ｂ）は円形の底部２４と張り出し部２６、図１０（Ｃ）は四角形（多角形でも可）の底部２４と張り出し部２６を示す。底部２４の長半径Ｌ、短半径Ｗ、張り出し部２６の長半径ｌ、短半径ｗは、Ｌ＞ｌ、Ｗ＞ｗとする。Ｌとｌの差は1㎜以上、Ｗとｗの差は1㎜以上とすることが好ましい。

【００６８】

また、底部２４の凹み部２８のラベル留め部２９によりラベル４０の下端４２を単に挟み止めするものであれば良く、ラベル留め部２９を構成する張り出し部２６の張り出し面２６Ａは傾斜部２５に必ずしも接しなくても良いが、接するほうが、挟み止めがより確実になるので好ましい。図７は、張り出し部２６の張り出し面２６Ａの半径ｒを大きくし、張り出し面２６Ａを傾斜部２５に隙間なく接するように張り出したものであり、ラベル４０の下端４２を張り出し面２６Ａと傾斜部２５の間に強く確実に挟み止めるものである。

【００６９】

また、底部２４において、凹み部２８のラベル留め部２９を構成する張り出し部２６の張り出し面２６Ａは、底部２４の全周に連続するものであれば、ラベル４０の下端４２を全周で確実に挟み止めできる。但し、張り出し部２６の張り出し面２６Ａは底部２４の周方向に間欠的に設けられるものでも良い。

【００７０】

また、底部２４にあっては、傾斜部２５が押し込み反転部２５Ｂになって凹み部２８を形成し、ひいては張り出し部２６の張り出し面２６Ａによってラベル留め部２９を形成するものであるが、傾斜部２５は単なる傾斜状であるよりも、階段状であることが反転の容易さの点で好ましい。

【００７１】

また、ラベル付き容器１０は、容器本体２０の首部２１～底部２４の全周にラベル４０を被せ、ラベル４０の上端４１を容器本体２０の首部２１に固定し、ラベル４０の下端４２を容器本体２０の底部２４に固定した。これにより、同一の容器本体２０に印刷表示の異なる各種のラベル４０を適用することにより、外観の異なる多様なラベル付き容器１０を簡易に提供できる。

【００７２】

また、ラベル付き容器１０にあっては、図８に示す如く、傾斜部２５の押し込み反転部２５Ｂの外周に嵌合突起１０１が設けられる。嵌合突起１０１は傾斜部２５の押し込み反転部２５Ｂの外周の周方向に連続又は間欠的に設けられる。他方、張り出し部２６の張り出し面２６Ａ寄りの外周に、張り出し部２６の底板部２６Ｂ寄りの外周寄り外方に大きく張り出した嵌合突部１０２を設ける。

【００７３】

容器本体２０の底部２４に設けた張り出し部２６及び傾斜部２５が容器本体２０内側へ

押し込まれ、容器本体２０の底部２４まわりに定めた反転境界部２５Ａに対し容器本体２０における軸方向の内側にまで押し込まれた傾斜部２５が張り出し部２６とともに凹み部２８を形成し、張り出し部２６の傾斜部２５につながる張り出し面２６Ａが該傾斜部２５に相対するラベル留め部２９を形成するとき、嵌合突起１０１が嵌合突部１０２に係合して外れない。これにより、容器本体２０の軸方向の内側へ一旦押し込まれた底部２４の傾斜部２５が押し返されることを確実に防止でき、凹み部２８及びラベル留め部２９をその後も確実に安定維持できる。

【００７４】

以上、本発明の実施例を図面により詳述したが、本発明の具体的な構成はこの実施例に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲の設計の変更等があっても本発明に含まれる。例えば、本発明の容器は、容器本体の底部が、胴部につながり、該胴部に対して縮径かつ概ね傾斜状をなす傾斜部と、胴部とは反対側において傾斜部につながり、該傾斜部から該容器本体の半径方向の外方へ張り出る張り出し部とを有し、張り出し部及び傾斜部が容器本体の内側へ押し込まれ、容器本体の底部まわりに定めた反転境界部に対し容器本体における軸方向の内側にまで押し込まれた傾斜部が張り出し部とともに凹み部を形成するとき、張り出し部の傾斜部につながる張り出し面が該傾斜部に相対するラベル留め部を形成するものでも良い。

【産業上の利用可能性】

【００７５】

本発明によれば、ラベル付き容器において、ラベルの下端を容器本体の底部に整えて設け、容器の美的外観を向上することができる。

【００７６】

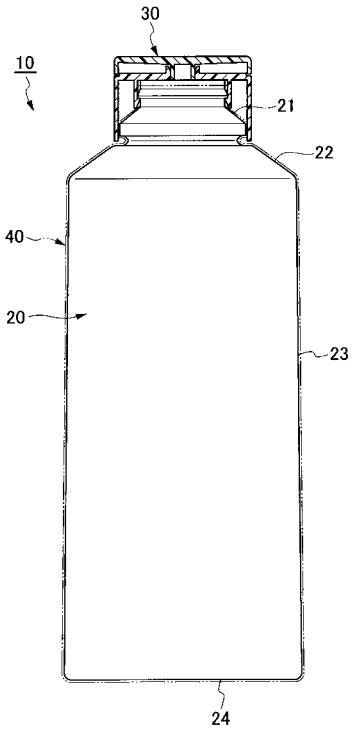
また、本発明によれば、ラベル付き容器において、ラベルの破損や汚損を防止し、容器の美的外観を向上することができる。

【符号の説明】

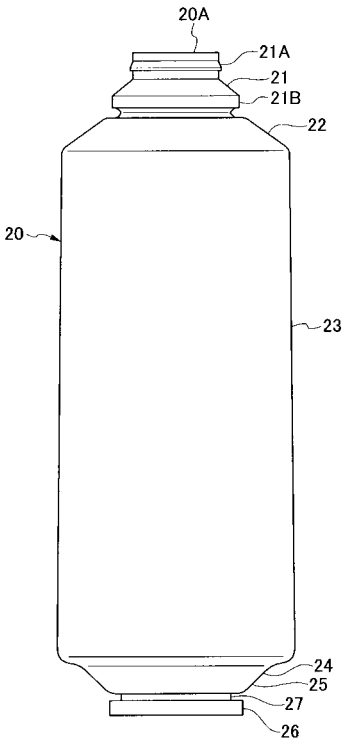
【００７７】

１０　ラベル付き容器
２０　容器本体
２１　首部
２１Ａ　小径首部
２１Ｂ　大径首部
２２　肩部
２３　胴部
２４　底部
２５　傾斜部
２５Ａ　反転境界部
２５Ｂ　押し込み反転部
２６　張り出し部
２６Ａ　張り出し面
２７　環状溝部
２８　凹み部
２９　ラベル留め部
３０　打ち込みキャップ
３１Ａ　係止部
３１Ｂ　スカート部
４０　ラベル
４２　下端

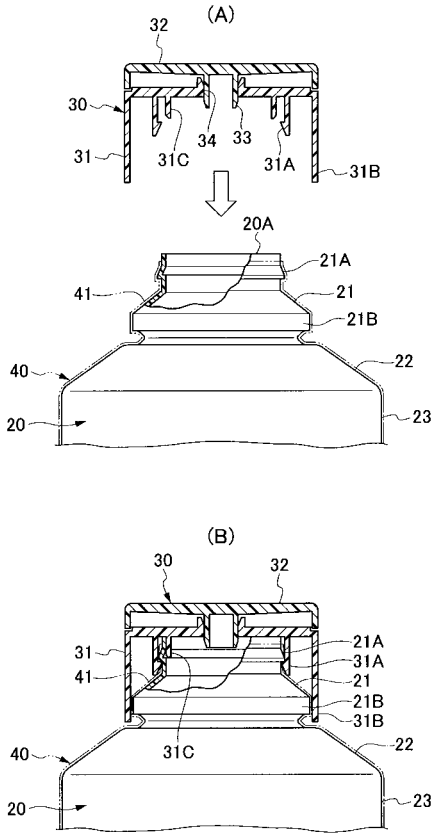
【図１】


30
10
21
22
40
20
23
24

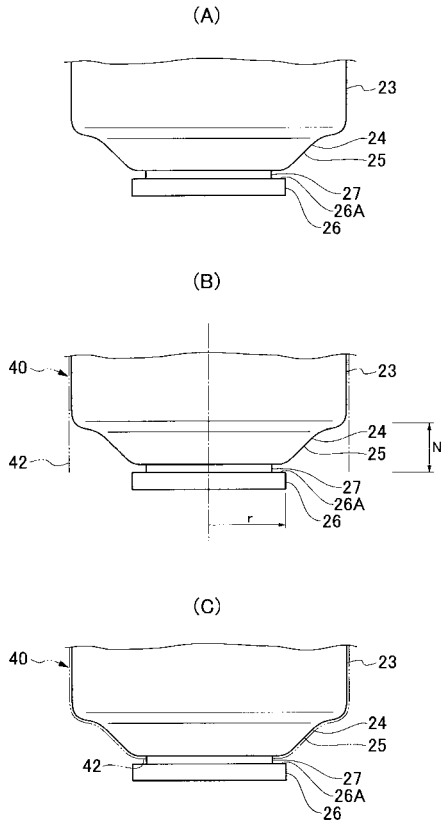
【図２】


20A
21A
21
21B
22
20
23
24
25
27
26

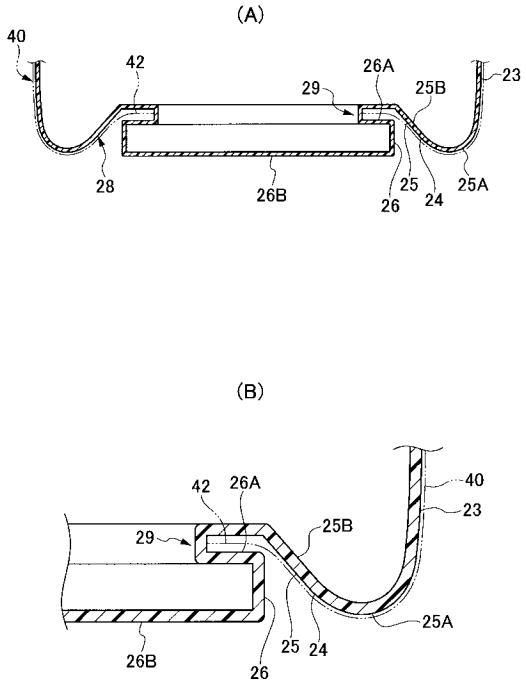
【図３】


(A)
32
30
31
31C
34
33
31A
31B
20A
21A
41
21
21B
40
22
20
23
(B)
30
32
31
41
21A
31A
21
21B
31B
31C
40
22
20
23

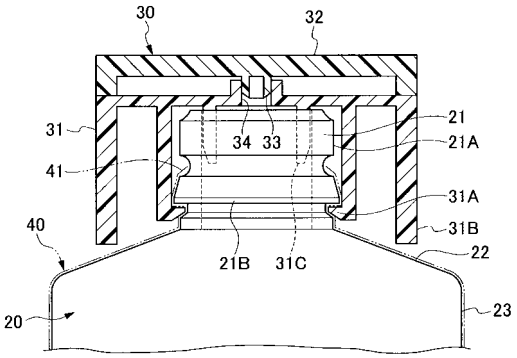
【図４】


(A)
23
24
25
27
26A
26
(B)
40
23
24
25
N
42
27
26A
r
26
(C)
40
23
24
25
42
27
26A
26

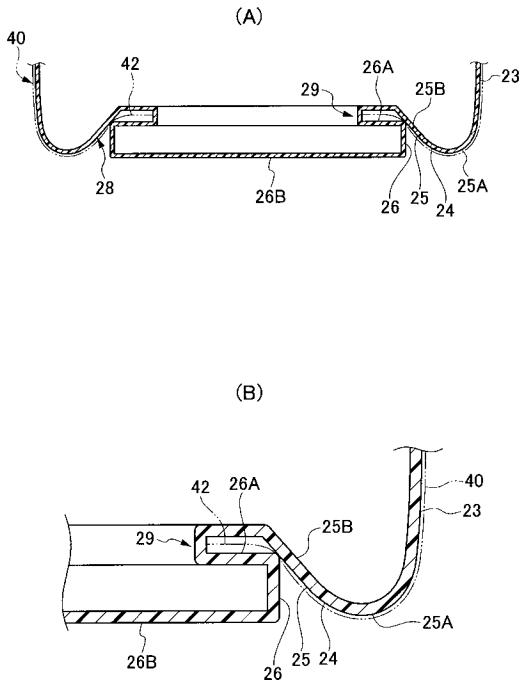
【図５】


(A)
40
42
26A
29
25B
23
28
26B
26
25
24
25A
(B)
42
26A
40
23
29
25B
25A
26B
26
25
24

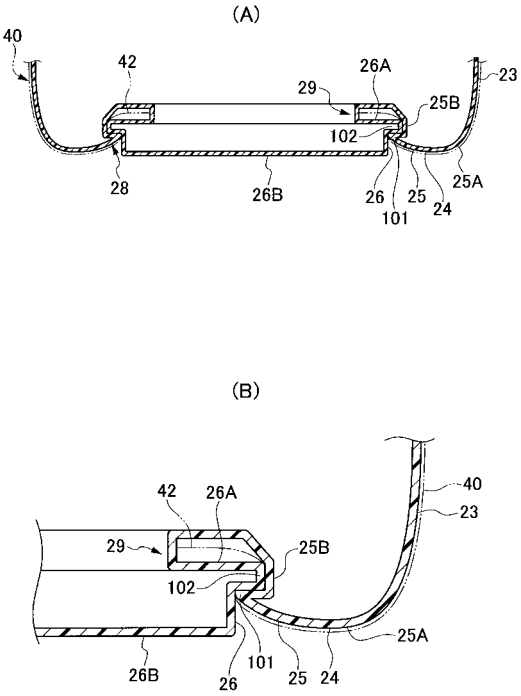
【図６】


30
32
31
21
34
33
21A
41
31A
31B
40
22
21B
31C
20
23

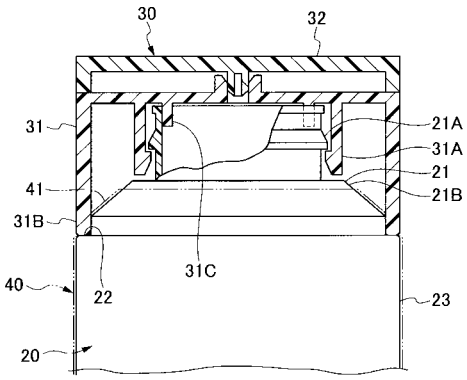
【図７】


(A)
40
42
26A
29
25B
23
28
26B
26
25
24
25A
(B)
42
26A
40
23
29
25B
25A
26B
26
25
24

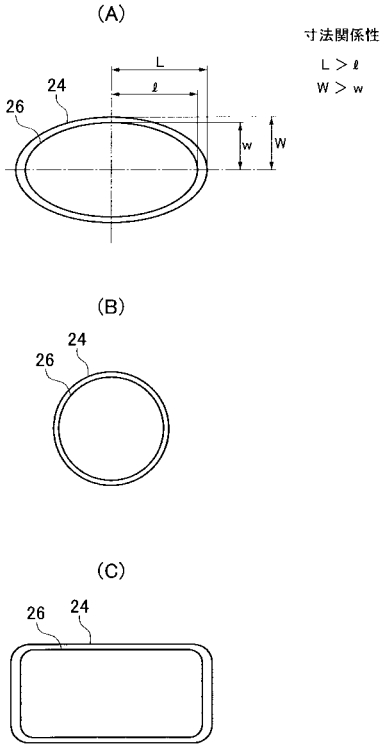
【図８】


(A)
40
42
26A
29
25B
23
102
28
26B
26
101
25
24
25A
(B)
42
26A
40
23
29
25B
102
25A
26B
26
101
25
24

【図９】


30
32
31
21A
31A
21
41
21B
31B
31C
40
22
23
20

【図１０】


(A)
寸法関係性
L > ℓ
W > w
L
ℓ
24
26
w
W
(B)
24
26
(C)
26
24

フロントページの続き

(72)発明者　関谷　健次
東京都墨田区文花２－１－３　花王株式会社研究所内

Ｆターム(参考) 3E033 AA02 BA13 BB08 DA04 DD20 EA20 FA03
3E062 AA09 AC02 BB02 BB10 DA02 DA07 JA04 JA05 JA08 JB05
JC02 JC06 JD02 JD03